

書類選考課題解答(修士課程用)

受験者氏名： 東大 太郎

興味のある研究テーマ： ○○○ (具体的な研究テーマで置き換えること)

(本文)

留意事項：

1. これまで受験者が学んできた内容に触れてもよいが、それらだけにとどめず、修士課程において研究したいテーマに重点を置いて記述すること。
2. 内容を正確に伝えるため、必要に応じて数式や図等を用いること。また適宜参考文献を引用して説明すること。剽窃をしてはならない。LLMなどの生成AIを使用した場合は、どのように用いたかを明記すること。
3. 「受験者氏名」欄以外の箇所に、受験者の名前、受験番号を記載してはならない。
4. 本留意事項(斜体の文章)は、解答作成時には削除すること。

参考文献

[1] ..

留意事項：

5. 3 ページ目以降は参考文献リスト以外の文章を記述してはならない。

6. 文献を引用する際には、以下を参考に、書誌情報（学术论文の場合は著者名，論文名，掲載誌名，巻号，発表年（西暦），ページ番号，書籍の場合は著者名，題目，出版社，出版年）を参考文献リストに記載すること。参考文献は第一著者の姓のアルファベット順に番号を振ること。本文中では [1], [2] 等と表記する。

参考文献リストの例：

[1] D. Clément, A. Kohatsu-Higa and D. Lamberton: A duality approach for the weak approximation of stochastic differential equations. *Annals of Applied Probability*, 16 (2006), pp. 1124–1154.

[2] T. H. Cormen, C. E. Leiserson, R. L. Rivest and C. Stein: *Introduction to Algorithms*, 3rd ed., MIT Press, Cambridge, MA, 2009.

[3] 今野浩：「線形計画法」．日科技連出版社，1987.

[4] 森本孝之・川崎能典：「経験類似度に基づくボラティリティ予測」．「統計数理」第 65 巻第 1 号 (2017), pp. 155–180.

[5] G. Strang: *Linear Algebra and Its Applications*, 4th ed., Cengage Learning, 2006.

（ [2], [3], [5] が書籍の例， [1], [4] が学术论文の例）

7. 本留意事項（斜体の文章と参考文献リストの例）は、解答作成時には削除すること。